

図書館だより

'99.12

美術館・図書館・映画館—ルーヴルの陶醉、その他—

種田和加子 (国文学)

昨年4月より一年間の研究休暇でパリに暮らす機会を得たことは、なによりも「都市」が好きな私にとって最適かどうかはわからないが、かなりよい「場」の選択だったと思う。3月末に帰国してからの数ヶ月は、インターネットでルーヴル美術館を呼び出してみたりしても「むなしく」て、おちこんでしまったものだ。私は、パリに住むなら「左岸」と決めていて、着いてから一週間で望みどおりの六区、サン・ジェルマン・デ・プレ教会の裏手の古い建物の最上階に入居した。リュクサンブール公園もセーヌもルーヴルも近い。これはどういうことを意味するか。ほとんど「わが庭」の感覚でパリの中心と接しているということだ。たとえば、漱石の「三四郎」を



目次

美術館・図書館・映画館 —ルーヴルの陶醉、その他— 種田和加子	……1	新任スタッフ紹介	……7
図書館にインターネット端末登場!!	……4	大学図書館相互利用サービスのご案内・冬休みの図書館	……8
みなさんは日頃どのように 図書館を利用されていますか?	……6		

読み返す。そのなかで、グルーズの画に言及した個所がある。美学の講義で三四郎はグルーズの画の女は「ヴォラブチュアスな表情」に富んでいると教師の説明をうけ、「池の女」美禰子の目付きは「ヴォラブチュアス」なものだ、と形容する以外にない、と分析する。それならば、と、ふらっと散歩に出かけルーヴルに入る。そして本物のグルーズの絵を見て「なるほど」と思う。こういうことがごく普通にできるのだ。それはうれしかった。もっとあとになって十六区に越してからも、さほど時間はかからないので、ルーヴルが「庭」という状態はかわらず、フラ・アンジェリコの「受胎告知」の天使の羽、あの色彩の美しさに匹敵する天使の羽はあるのかどうか急に思い立つとイタリア絵画を収集したデュノン翼(なにしろ広い!)に行き、半日かけて集中的にみるなどといったことをしていたものだ。ああ、なつかしい。ルーヴルの場合はあまりにも広大で、バチカン美術館並みとってよいだろうか。そのため、旅行中にいくらゆっくりみたいと思っても、混雑にめげて十分にはみられなかったもので、今回居住したことで思いがかなったというわけだ。加えて、私がパリ第七大学からもらっていた「招聘状」をみせると国立の美術館については無料になり、市立については割引という「特典」があった。それはもう大いに活用させてもらった。昨年春から七月ごろまでルーヴルで行われてい

たジュリア・クリステヴァの企画による「ヴィジョン・キャピタル」という特別展も実に興味をそそるものであった。これはヒトの頭部(顔)の表象を古代美術からピカソまで集め、聖ヨハネの切断された頭部とサロメ、メテュサ、骸骨などさまざまな形象を展示したもので、文化人類学、精神分析、哲学の背景のもとでのクリステヴァの解釈を押し出していて、美術史の枠を超えた内容である。これについては、ビデオ上映とともにクリステヴァの講演、ディスカッションも行われている。この「批評的展覧会」とでもいうべき新しい試みは1990年秋冬、J・テリダの「盲者の記憶」をはじめとする。美術史以外の領域で活動している作家や研究者、批評家を起用してルーヴルの所蔵品から彼らの視点で作品を選び、美術史に「他」のまなざしを導入し、作品の意味付けを行おうとするものであるという。(「盲者の記憶」みすず書房、鶴飼哲解説)。

ルーヴルを例にしたが、無論ここにかぎらず図書館や美術館が一種の文化センターとして多面的な活動をしていて、そのプログラムの豊かさには感心した。私の手元にはあちこちの図書館や美術館、コンサート、演劇関係のプログラムが未整理のまま残っている。藤の図書館あてにはリシュリュウの旧国立図書館の1998年4月から6月までのプログラムを送った。これは、ドラクロワのロマン派画家としての足跡を追った特別展(ファウスト

やハムレットの作品場面の絵が特に面白かった)を筆頭に、ヨーロッパの行く末を問いかける講演会、シンポジウム、ユゴーやコクトーに関わりのある音楽のコンサートなどなど、たっぷりした内容である。

日本からもちこした論文のために送った本はダンボールで十箱ぐらいたったが、それでももちろん不十分で主に、「日本文化会館」の図書室を利用した。しかし、研究書のたぐいがほとんどなく、不満がたまる。ここも催しものは多い。渡辺守章演出の「天守物語」をみたが、ひどい演出でがっかり。黒沢明へのオマージュとして連続で映画上映があり、はじめて「天国と地獄」や「七人の侍」をみた。一般に映画の料金は47フランと、ロードショーでも安く、水曜日は割り引きがあるので映画の日にしてた。パッシー通りの映画館まで歩いて少々なのでカトリーヌ・ドヌーヴの「ヴァンドーム広場」などは六回くらい見た。(どうしても終わりがたの意味がわからなかったせいだ。結局、「どうなる」という最後ではないことがわかった。最近札幌で字幕つきでみたからである。これだから、フランス映画はやっかいである。)

しかし、私の文化的関心のなかでもむしろ「病」に近いオペラのことにはちょっとでもふれておきたい。なにしろ帰国する二日前にオペラ・コミックでの「ペレアスとメリサンド」をみたくらいはまっていたのだ。同時に日本

でみるとチケットが高くて大変なので見られるときにみておこうというせこい気持ちも多分にあった。オペラ・バステューエでみたもののうち、一番よかったのは、99年2月の「マクベス」。マリア・グレギーナのマクベス夫人は文句なしの出来栄え。マクダフで登場したフランコ・ファリーナというテノールがよかったのでこれからひいきにするつもりであるが、批評では音程がよくないとけなされていた。音程の少々の乱れより見た目とか存在感のほうが大事ではないだろうか。ホセ・クーラとウリア・モリソンの「カルメン」は二時間並んでも切符は買えなかった。本命でもないのに未練はない。3月はじめの「魔笛」はケンゾーの衣装がよくて演出はなじみず、これで打ち止めのつもりが、すっきりしないのでオペラ・コミックへ行ってしまった。

思えば、めぐまれた一年であったが刺激の強い都市の毒がまわって、それを「初期化」しようとしたが無理であった。毒とともにほつほつやっっていくことにしている。

資料紹介

○盲者の記憶 自画像およびその他の廃墟

ジャック・テリタ著 みすず書房 1998
花川館所蔵 (720.1/D63)


図書館にインターネット端末登場!!



本館・花川館共少ない台数ではありますが、インターネットができる端末を設置しました。インターネットを通じて、下記のデータベースがご利用いただけるようになりましたのでご紹介します。館内インターネット端末からアクセスしてください。


ODNA Digital News Archives

1984年8月以降の260万件にのぼる朝日新聞記事が検索できます。その日の朝刊の記事まで含みますので、最新のニュースも調べることができます。雑誌「AERA」の記事も創刊号(1988年)から収録されています。

キーワードを入力すると、瞬時にその語を含む記事を検索します。原紙や縮刷版をめぐって調べることを想像すると、大変画期的なサービスです。花川館で所蔵する朝日新聞記事検索のCD-ROM(HI-ASK)も、これまでどおりご利用いただけますが、1992年から1997年分のみですので、これ以外の期間分はDNAをご利用ください。










検索セッションを終了するには、「終了画面」から「検索終了」ボタンをクリックして下さい。

検索対象

見出し

本文

掲載年

面名前

上の入力ボックスに検索する用語を入れてください。
空欄の入力ボックスは、検索の対象になりません。

※本館では当分の間、DNAのみ代行検索になりますので、カウンターにお申し込みください。

○日経テレコン21

1985年以降の日経四紙、全国紙、地方紙の記事を検索できます。一つのキーワードで一度に数紙の記事が検索でき、とても便利なデータベースです。ただし、朝日新聞は入

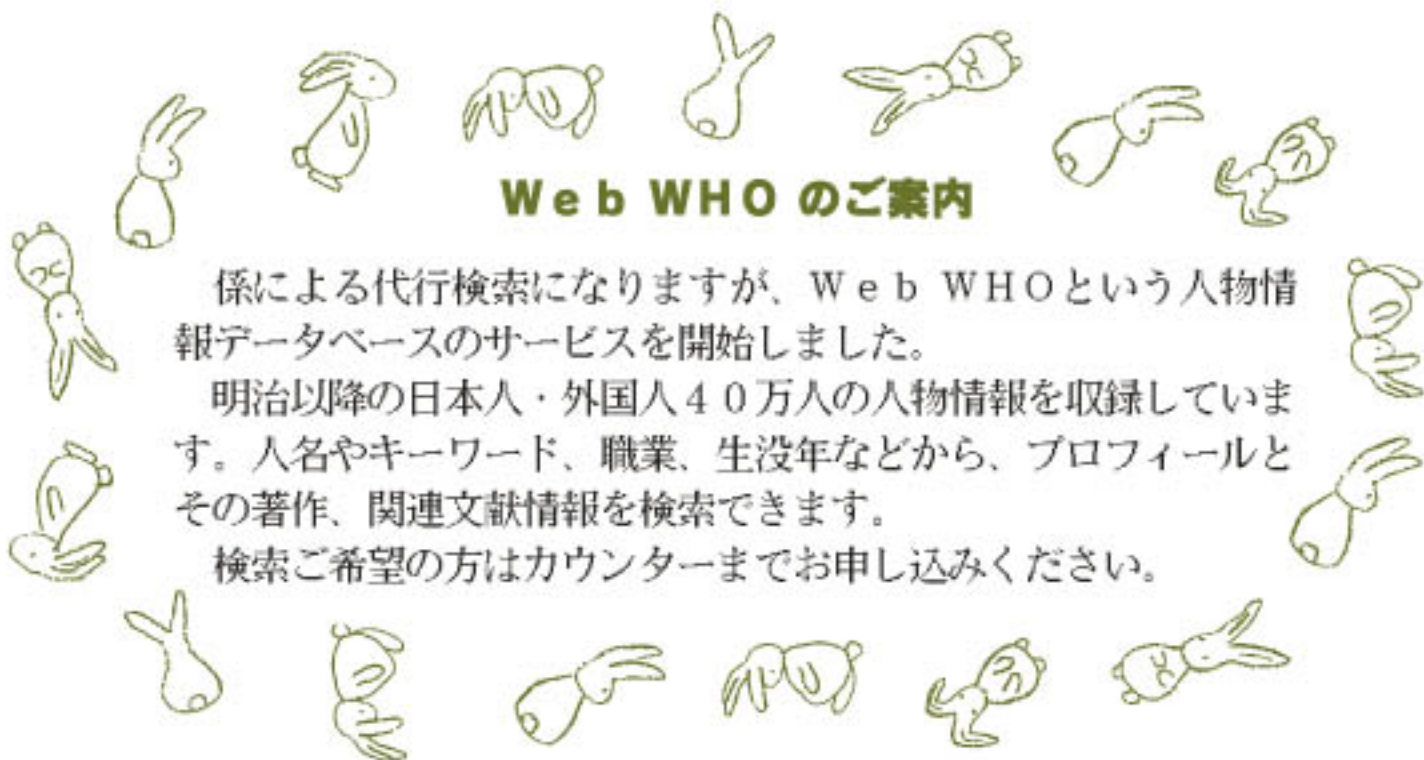
っておりませんのでDNAをご利用ください。これまで検索依頼が多かった北海道新聞も見ることができます。

新聞記事のほか、「日経ビジネス」や「日経パソコン」などの雑誌記事、日経速報ニュースなど、さまざまなサービスがあります。

ONICHIGAI/WEB 雑誌記事索引

国立国会図書館が所蔵する、国内刊行の5,607誌に掲載された1985年から現在までの雑誌記事を検索できます。論題名や著者名などを入力して検索してください。索引ですので、記事・論文そのものは入っておりません。どの雑誌の何号に掲載されているかわかったら、まず本学にあるかどうかをOPACで検索してみてください。所蔵していない場合は、他の図書館から借りたりコピーを送ってもらうことができます。

月2回更新しますので、最新の情報が得られます。CD-ROMは1999年1月までのものしか用意しておりませんので、それ以降についてはインターネット端末でこちらのデータベースをご利用ください。是非一度お試しください！



Web WHOのご案内

係による代行検索になりますが、Web WHOという人物情報データベースのサービスを開始しました。

明治以降の日本人・外国人40万人の人物情報を収録しています。人名やキーワード、職業、生没年などから、プロフィールとその著作、関連文献情報を検索できます。

検索ご希望の方はカウンターまでお申し込みください。

みなさんは日頃どのように図書館を利用されていますか？

好きな本を読んだり、レポートを作成したり、あるいは講義の合間の時間つぶしに…。とそれぞれの利用法があると思いますが、今回は2人の方に学生時代どのように図書館を利用していたか、うかがってみました。みなさんもこれからの図書館利用の参考にされてはいかがでしょうか。

真鶴俊喜（法学）

実のところをいうと、僕は学生時代、あまり図書館を利用していませんでした。それどころか、大学という施設をあまり利用していなかったというべきかも知れない。要するにあまり学校に居着かず、授業も適当にサボっていたということです。法学部にいながら法学の専門書は教科書以外ほとんど持っておらず、むしろ趣味のほうの、歴史小説や時代小説や映画に関するものなど、いわば娯楽に関するものを読み漁って、かえって意地になって、法学部生らしくない法学部生を気取ろうという、いま考えれば変な考え方であったものだから、図書館で専門書を引く、などということは滅多にありませんでした。

ところがふとしたきっかけで大学院に進学し、法学の研究者としてのみちを歩み始めてから、図書館との関係はガラッと変わりました。そもそも僕の所属した大学院の研究室は図書館の中にあり、図書館の玄関を身分証を提示して通過し、各専門の研究室に向かうというシステムでした。大学院というのは、ほかの専門でも大差ないと思いますが、基本的に授業というのは演習の形式で、参加している各院生が与えられたテーマについて報告し、議論するというものですから、テーマに関係する資料や論文を集めてくるのが当然に必要なわけです。判例、論文、法令といったものになるべく多くあたらなければなりません。人によっては、そういった資料をいかに多く集めたかが報告の正否を決めるといいます。僕のいた研究室のある図書館は開架式であったこともあり、図書館の中に研究室があるというのはそういった意味でたいへん都合でした。貸出手続きをしなくても、自分の研究室に好きな数だけ持ち込んで、目を通したり、コピーをとったりできたのです。けれども、これはよく考えるとほかの利用者にとっては非常に迷惑なことです。貸出されていないはずの図書が行方不明になってしまうのですから、案の定、図書館側から注意を受け、果ては研究室への立ち入り検査を受ける羽目にまでなってしまいました。そのときには、僕らの院生の側から「研究室の自治の侵害だ」などとクレームを付けたものですが、このころは、大学の図書は自分たち法学研究者を目指す者のためにあると、自分勝手に解釈していたところがあったようです。四大生の頃、法学生然とした、「自分たちは法学を学ぶのだ」という学友や周りの雰囲気抱いていた反発の理由の一つに、そういった専門研究者のおごりへの無意識の反感があったのかも知れません。

篠宮悠子（平成10年度人間生活学部人間生活学科卒）

来年3月に卒業を迎える方達は、就職活動、卒論で忙しい日々を過ごされていることでしょう。昨年10月頃、私は四苦八苦しなから卒論に取り組んでいたことを思い出します。

私の卒論のテーマは、「流行から時代のメッセージを読み取る」と題し、70年代と90年代にアジア・ファッションが流行したのは何故かを探るというものでした。テーマを絞っていたつもりでしたが、想像以上に範囲が広がってしまいました。締め切り日は刻々と近づいてきているのに、一向に捗らないので、気持ちばかりが焦っていました。周りを見渡せばどの人も、着々と進んでいるように見え、一人取り残されているようで不安だったことを覚えています。

卒業して振り返ってみると、卒論は、内容が素晴らしいに越したことはないですが、書き上げる過程が何よりも大切だということです。自分の興味あることをテーマに、資料を集め、関連する本を読み、考察し、自分の考えを固めていく。

社会に出てしまうと、本を読む時間がめっきり少なくなってしまいます。今は月に2、3冊読めればいい方です。学生時代は本が常に身近にあるのですから、様々な本に出会えます。私は卒論のための資料を探しているうちに興味ある本を手に取り、読んでいました。寄り道をしてしまったな、と思っていましたが、興味を持った時に読んでおいて良かったです。本を読む時間がたっぷりあるというのは、学生までです。

卒論の為に沢山の本を読んでいることでしょうかから、その勢いで本を手にとってもらいたいです。藤には、花川の他に北16条にも図書館があるのですから、満喫して下さい。

卒業までの貴重な時間を大切に過ごして欲しいです。

新任スタッフ紹介



石田 しのぶ
本館閲覧室

閲覧室で働き始めてはや1か月、利用者の皆さんと接する機会が多く、毎日楽しく仕事をしています。これからも日々是勉強の気持ちを忘れず、皆さんにとってより使いやすい図書館にしていけたら、と思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



横井 直子
図書館事務室

周囲の素晴らしいスタッフに助けられ早くも1ヶ月が経ちました。充実した毎日を過ごすことができ、とても感謝しています。

これからは一日も早く皆さんのお役に立てるよう一所懸命がんばりますのでよろしくお願いいたします。

大学図書館相互利用サービスのご案内

下記の大学図書館で、直接貸出サービスを利用できるようになりました。紹介状・依頼状が不要で、貸出、閲覧及び複写ができます。


旭川大学 **札幌学院大学** **北星学園大学**
北海道医療大学 **北海道工業大学** **酪農学園大学**

利用希望の方は本学図書館での登録が必要ですので、カウンターにお申し込みください。当館のホームページから各図書館の利用案内を見ることができます。一部の大学では蔵書検索もできますのでご覧になってみてください。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

江別市にある北海道立図書館でも直接貸出サービスを受けられるようになりました。道立図書館の利用は本学での手続きは不要ですが、身分を証明するものが必要になります。

冬休みの図書館

期 間	12月16日(木)－1月14日(金)	
開 館 時 間	月－金 9:30－16:30 水 10:00－16:30 土 9:30－12:30	
休 館 日	12月23日(木)－1月5日(水)	
長 期 貸 出	12月9日(木)より開始します。 1月21日(金)が返却日です。 1月7日(金)からは通常貸出(2週間)となります。	
貸 出 冊 数	通常通り(10冊)です。	
	詳しくは掲示板・配布資料をご覧ください。	

藤女子大学 藤女子短期大学 **図書館だより** 第56号 1999.12

発行者 札幌市北区北16条西2丁目 藤女子大学図書館
 TEL 011-736-5405 FAX 011-709-4770